

# 舞踊鑑賞における伝達構造

## —ライブ鑑賞とビデオ鑑賞の比較—

○大阪女学院大学 原田 純子  
同志社大学 阪田真己子  
武庫川女子大学 徳家 雅子

### 1. はじめに

舞踊鑑賞は舞踊の学習において、その創造活動を活性化させる有意義な体験である。なかでも、踊り手と鑑賞者が同じ空間で向き合うライブ鑑賞は、互いの身体がそこに在るという意味において、ビデオで鑑賞するのとは異なる“何か”が伝わると考えられる。そこで、本研究ではライブ鑑賞とビデオ鑑賞において、鑑賞者が作品の特性や印象をどの様に受け止めているかを明らかにする。そしてさらに、身体から身体にメッセージが伝えられることの意義について考えたい。

### 2. 研究方法

ライブ鑑賞とビデオ鑑賞を2.1のように設定し、学生とプロが創ったソロ作品について、先行研究を元に独自の質問紙を作成し、鑑賞者がどの様に作品を鑑賞し、作品に接近しているかを調査した。

#### 2.1 調査の方法と鑑賞者

- ①ライブ鑑賞 2005年12月3日に行なわれたM大学ダンス部の定期公演において、開演前に会場入り口にて質問紙を全観客に配布し、終演後に回収した。本研究ではこの回答の中から、M大学の学生79名分を対象とした。
- ②ビデオ鑑賞 2006年7月15日、同大学文学部健康スポーツ学科の学生76名に対して、大型スクリーンに上記の公演ビデオを上映し、①と同様の質問紙を配布し、回答を求めた。鑑賞者の平均年齢は、ライブ群19.96(±1.19)歳、ビデオ群18.37(±0.49)歳であった。それぞれの群の舞踊経験、鑑賞経験は、表1に示す通りである。

表1：各群の舞踊経験と鑑賞経験 (人 (%))

	舞踊経験		鑑賞経験	
	有	無	有	無
ライブ群	37(46.8)	41(51.9)	59(74.7)	17(21.5)
ビデオ群	70(92.1)	6(7.9)	45(59.2)	17(22.4)

#### 2.2 鑑賞対象とした作品

- ①学生作品 = 「Monochrome」(2005) M大学ダンス部3年生による自作自演
- ②プロ作品 = 「永い夢を見ていた」(2005) M大学ダンス部コーチ(プロダンサー)による自作自演

#### 2.3 質問紙の内容

鑑賞者は、以下に示す16項目を5段階(5.非常にそう思う～1.全くそう思わない)で評定し、さらに作品の感想を自由に記述した。また、鑑賞時の注目点について[動き][作品の構成][踊り手の表情][作品のテーマ][衣装][その他]より選択した。

#### [調査項目]

①引き込まれるものがあった②一貫したテーマが感じられた③動きからメッセージが感じられた④想像をかきたてるものがあった⑤動きが洗練されていた⑥目新しさがあった⑦存在感(雰囲気)を感じさせるダンサーであった⑧動きの流れが単調であった⑨作品にまとまりがあった⑩印象に残るよい部分があった⑪完成度が高かった⑫枠にはまらない面白さがあった⑬ダンサーの技術レベルが高い⑭衣装が効果的であった⑮音楽が作品にふさわしかった⑯テーマに深さを感じた

### 3. 結果と考察

表2には、項目ごとに算出した評定平均得点を示している。

#### 3.1 各作品におけるライブ群とビデオ群の比較

各作品におけるL群とV群の各項目の平均得点についてt検定を行ったところ、学生作品は質問⑤⑪⑬以外の項目において、またプロ作品はすべての項目において、ビデオ鑑賞よりもライブ鑑賞の方が平均得点が高かった(p<0.05)。

#### 3.2 各鑑賞形態における学生作品とプロ作品の比較

各鑑賞形態における学生作品とプロ作品の各項目の平均得点についてt検定を行ったところ、L群は計10項目(②③④⑤⑧⑨⑩⑪⑬⑯)において有意に得点差があったのに対し、V群で得点差があったのは計3項目のみ(③④⑯)であった(p<0.05;有意差があった項目はいずれも学生<プロ)。

表2：ライブ(L)群とビデオ(V)群の平均得点

項目	学生作品		プロ作品	
	ライブ群	ビデオ群	ライブ群	ビデオ群
①	4.20 (0.65)	3.33 (0.85)	4.40 (0.61)	3.57 (0.92)
②	3.95 (0.70)	3.43 (0.83)	4.32 (0.66)	3.55 (0.82)
③	3.58 (0.90)	3.09 (0.78)	3.88 (0.81)	3.60 (0.80)
④	3.56 (0.82)	3.04 (0.77)	4.01 (0.81)	3.43 (0.84)
⑤	4.19 (0.68)	3.99 (0.80)	4.47 (0.62)	3.76 (0.80)
⑥	3.94 (0.82)	3.46 (0.79)	4.05 (0.87)	3.34 (0.81)
⑦	4.27 (0.72)	3.74 (0.88)	4.41 (0.69)	3.72 (0.87)
⑧	1.95 (0.77)	3.28 (0.81)	1.82 (0.79)	3.16 (0.76)
⑨	4.04 (0.81)	3.56 (0.72)	4.72 (0.66)	3.48 (0.84)
⑩	4.00 (0.92)	3.17 (0.87)	4.29 (0.76)	3.48 (0.96)
⑪	4.13 (0.76)	3.91 (0.68)	4.59 (0.59)	3.86 (0.83)
⑫	3.73 (0.86)	3.09 (0.88)	4.01 (0.92)	3.28 (1.02)
⑬	4.05 (0.83)	3.87 (0.82)	4.44 (0.71)	3.88 (0.82)
⑭	3.96 (0.76)	3.37 (0.84)	3.91 (0.86)	3.50 (0.82)
⑮	4.20 (0.76)	3.57 (0.88)	4.19 (0.72)	3.66 (0.87)
⑯	3.86 (0.89)	3.40 (0.92)	4.27 (0.75)	3.72 (0.79)

註) カッコ内は標準偏差

以上の結果より、どちらの作品においてもライブ鑑賞の方がビデオ鑑賞よりも作品のテーマ性や動き、印象が明確に伝わっていると推察される。また、ライブ鑑賞ではプロと学生の表現技術の差異は区別されたが、ビデオ鑑賞では区別されにくいことが分かった。

今後は、同一被験者による調査を行ない、ライブ鑑賞とビデオ鑑賞のより詳細な伝達構造を比較検討する必要があるだろう。